

《教育長メッセージ 第4号》

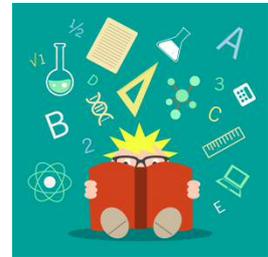
海老名耕地の田んぼが色づき、秋本番といった風景になってきました。市内の8小学校、5中学校で運動会・体育祭が行われました。応援に行かれた方も多いことでしょう。私は、多くの方に学校に足を運んでいただきたいと考えています。

子どもたちの活動する姿は、プライスレスの感動を生みます。例えば、運動会のダンスや表現など、子どもひとりひとりの『真剣な顔』、『笑顔』、『精一杯の動き』に感動させられます。

みなさん、ぜひ、学校に足を運んでください。

『勉強』

学校教育では、「勉強」は「学習」という言葉で表記されますが、私は「勉強」という言葉のひびきが好きです。



「勉強」という言葉に含まれる、努力や粘り強さ、生きるために、生活のために、自分のために、一生懸命がんばるというニュアンスが好きなのです。

私は、生まれながらにして、人には自分をよりよくしようという力があると信じています。だから、すべての子どもたちに、わかるようになりたい、できるようになりたいという意欲が内在していると考えています。

そういう意味で、「勉強」は、わかった、できたという喜びを積み重ねることだと考えています。

学校は、特に義務教育では、その喜びを計画的に実践することが求められているところです。

「勉強」は、学校だけでなく、大人になっても続きます。

人は、一生、「勉強」だと私は思っています。

勉強にかかわる宮沢賢治の詩を紹介します。

「あすこの田はねえ」という詩です。図書館やインターネットで調べて読んでみてください。

私は、詩の結びの『・・・雲からも風からも 透明な力が そのこどもに うつれ・・・』というフレーズが大好きです。

次回は、『本』について、私の思いを伝えてみようと思います。